

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修や職員会議、ユニット会議にて実際のケアにどのように活かしていくか、話し合いながら取り組んでいる。	理念についてホームパンフレットに細かく記載し、利用契約時に家族や本人に説明している。職員会議の都度、「尊厳を保持しつつ、その人らしさ、役割と生きがいを持つ」という理念を確認し支援に取り組んでいる。現状はないが、仮にそぐわない言動等が職員に見られた場合には個々に話をし日常の支援に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや保育園児との交流、地域の催し物に参加したり、関連施設のデイサービスで交流する機会を設けている。	法人として区費を納め、森区の一員として活動している。行事毎に区より案内を頂き、春祭り、秋祭り、どんど焼き等に参加している。今年は千曲市総合防災訓練が東部地区拠点会場として東小学校で開催され利用者も参加し色々な体験をした。地域の保育園児の来訪が年2回ありジャンケンや肩たたき等で交わり、子供とのふれあいの時を楽しんでいる。また、踊り、音楽演奏、フラダンス等の地域ボランティアの来訪も月3回あり利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ボランティアさん来所時に触れ合う機会を設け利用者様への支援の方法を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見等は活動に活かすよう取り組んでいます	2ヶ月に1回、利用者、家族、民生委員、区長、前区長、次期区長、市高齢福祉課職員、ホーム関係者の出席で開催している。活動状況報告(利用者状況、行事報告、事故報告等)、要望・助言、その他特記事項について話し合い、サービスの向上に繋げている。施設長の働き掛けの結果、3名の区関係者が会議メンバーに名を連ねることで地域との関係の継続性が保たれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ、現状を知っていただき、アドバイス、意見などをお聞きし連携を図っている。	事故報告、感染症報告等必要に応じ市高齢福祉課に報告の上相談している。介護認定更新調査は家族に連絡の上調査員が来訪しホームで行い、三分の二位の家族が立ち会われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は周りが田畑や山の為離設時の危険を防ぐ為に施錠している。外出したい時は職員が同行している。	玄関は安全確保のため施錠している。現在拘束を必要としている利用者はいない。離設傾向の強い利用者が数名いるが毎朝職員が付き添いホームの周りを散歩したり野菜の収穫等で気分がまぎれるようにし、また、ホームに慣れ親しんでいただくよう取り組んでいる。法人の身体拘束委員会が2ヶ月に1回行われ周知徹底を図っている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置や職員研修を通じ身体だけでなく、言葉の虐待についても、注意するよう、職員同士意識しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて、制度の理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前説明時に、疑問点など伺いながら説明をしている。不明な点は随時聞いていただくよう案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で記入いただける意見箱を用意してあります。面会時にお越しの様子をお伝えし、要望を受けて対応方法についての話し合いをしています。	家族の来訪については週3~4回の方もおり様々であるが、来訪時には細かく報告、相談をしている。家族が高齢で来訪が難しい場合には電話にて話している。家族会を年1回、敬老会時に開催し、ボランティアのアトラクションや職員の出し物、食事等を楽しんでいる。活動報告や職員手書きの利用者個々の近況報告等を盛り込んだお便り「森の里だより」を年4回、四季折々に発行し、家族にも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞いたり取り入れたりし、改善するなどしている。	職員会議を月1回行い、各種研修等も含め話し合い、共有化を図っている。ユニット会議も月1回行われ、利用者個々のケアについて話し合っている。職員が気軽に話し合える環境作りに心掛け、職員の希望を取り入れるため人事希望調書を作成するようにし、施設長が話を聞き意向に沿えるようにしている。職員の会「杏友会」があり暑気ばらい、忘年会等を行い職員同士の交流を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が年1回職員の意見、要望や仕事への取り組みを聞き取り、人事考課へ反映している。個人の事情に応じ希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修はもちろん外部講師を招き、研修を行っている。 外部研修の情報を収集し、今後参加を進めていく。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して、ネットワーク作りをしています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に生活歴等の情報、好まれていた習慣などを伺い、入所後はどのような生活を望んでいるかをお聞きし安心へと繋がるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での様子、援助してきたこと、困っていることなどを聞き取り、ご家族に経過報告をし、家族の思いを支援に取り入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況やケアマネージャーからの情報から必要なサービスを選択できるよう相談させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で得意にされている事を見つけ、それを教えて頂くことで、自信を持って生活して頂き、支え合える関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が安心して過ごせるように、ご家族の面会時にはご本人の様子や思いを伝えたり、ご家族の要望を聞き取り生活に活かすよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人、近所の方などの訪問があり来所時には気軽に面会して頂けるように声掛けしています。馴染みの場所に外出する機会を設けている。	近所の方や母体の特別養護老人ホームに併設されているデイサービスに通う知人などの来訪があり、親しく話の出来る場所作りに努めている。携帯電話使用の利用者が数名おり家族と連絡を取り合っている。ぬりえで年賀状を作成し、家族に出す予定である。利用者同士の関係も職員が中に入ることで良好な関係が継続されており日々過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ職員が間に入りながら、利用者様同士が交流し、親しくできるように努めている。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス利用への移行まで事業所と連絡調整を行い、本人ご家族共不安にならないようお手伝いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの希望や意向を確認、職員間で情報を共有しながら極力サービスに取り込むようにしている。	ほとんどの利用者が意思表示出来る。利用開始時に家族より過去の生活歴と希望を聞き、情報を共有し支援に取り組んでいる。日々の関わりの中で不満などを聞き、食事、散歩等、出来ることをやっていたりするようにしている。また、利用者自らの言葉を大切に、好きなことを生き甲斐に繋げるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしをご本人、ご家族、ケアマネジャーから情報を収集し、入居後も家族等に聞きながら、馴染みの暮らしが継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活習慣を把握したり、表情などからご本人の心理状態を把握し、興味のある事柄等観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録等や身体状況等生活において変化があった場合にカンファレンスを行い計画を作成している。	職員は1~2名の利用者を担当し、家族への対応や居室内の清掃、誕生日の準備等を行っている。サービス担当者会議に家族の出席をいただき、希望を聞きモニタリングを行い、管理者がプラン作成を行い3ヶ月に1回の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化やその時の気づきなど、細かく記録し、情報を共有している。引継ぎ前には記録を確認し、変化については話し合いをしてケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方を支える家族構成、関わっている方の年齢などから、車イスの方の受診の送迎などこちらで支援させていただいたり、その時々ニーズに対応している。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方に情報をいただいたり、より多くのボランティアに來所いただけるよう働きかけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのご本人が信頼を寄せているかかりつけ医に継続して受診しています。かかりつけ医を持たない方は近くの往診が必要になった時に往診可能な医師を紹介しています。訪問歯科医師もご利用いただいています。	ほとんどの利用者は入居前の主治医を継続しており家族が受診にお連れしている。3名の利用者は近くの内科医を利用しており職員がお連れしている。歯科については必要に応じ往診での対応となっている。日々の体調管理は母体の特別養護老人ホームの看護師と連携し、緊急の際にはホームの協力医である病院と連携を取り対応している。総合病院主催の各種研修会にも積極的に参加している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くにある系列施設の看護師に判断に迷った時、緊急時など対応方法を相談したり、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、退院後の情報提供がある時には、同席させていただき、今後についてのご家族の希望を聞き相談させていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に今の状況を説明し、今後についての相談をさせていただいている。事業所で何ができるか、職員間の話し合いも行っている。	重度化や終末期の対応については法人の方針を話し、ご理解を頂いている。終末期の支援についてはグループホーム本来の支援の在り方を崩さず、状態の変化に合わせ家族や医師、職員で話し合いを重ねホームで出来得る限りの支援に取り組み、状況に合わせ法人運営の3ヶ所の特別養護老人ホームへの住み替えの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修にて、導入したAEDの研修を行ったり、急変時の対応を学ぶために、外部研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中と夜間帯について行い、職員は役割分担に基づき行動できるようにしている。訓練の協力を区長様、自衛消防団の方にもお願いしています。	年2回、消防署の協力と運営推進会議メンバーの参加を頂き防災訓練を実施している。消火、通報、避難の各訓練を行い、利用者を玄関先まで移動させ訓練を行っている。毎月、職員のみで昼間、夜間想定避難訓練を実施している。ホームの隣に法人所有の旧スイミングスクールの25メートルプールがあり水を貯え近隣の貯水槽として万が一に備えている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の特性を今後も生かし個々を大切にしながら、尊厳を保持した関わりを心掛けています。	プライバシー保護の研修会を行い日々のケアに役立てると共に個人情報を外に漏らさないよう徹底している。親しき仲にも礼儀ありで言葉遣いには特に気をつけ接している。呼び方は尊敬の念を込め基本的に「苗字」にさん付けでお呼びし、希望に沿い「名前」で呼ぶこともある。居室に入る時にはノックをし、「失礼します」と声掛けをしようとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定の場面を設け思いを聞き出すよう努めている。日常生活の中で思いや気持ちを引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な対応ではなく、動きがゆっくりな方はゆっくりと、その方のペースに合った生活を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理容師に来て頂きご本人の希望に沿った髪形にしています。外出時などは、本人の希望に合わせた好みの服に着替えていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望の献立やリクエスト、行事食も取り入れています。利用者と一緒に盛り付けや食器洗いも行っています。	一部キザミ等の方がいるが、ほとんどの利用者は自力で、また、常食で食事が摂れている。母体の特別養護老人ホームの管理栄養士と連携を取り、利用者の希望を取り入れ献立を作り、主菜はその特別養護老人ホーム、副菜はホームで調理し提供している。お手伝いやおやつ作りには全利用者が参加し楽しく行っている。週2~3回の食材の買い出しには利用者も一緒に出掛けている。また、外出時には軽食、アイスクリーム等を楽しみ、誕生日、敬老会、正月等には特別食を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に確認をし、摂取量が少ない方には、補うようにしています。飲み込みづらい方には、トロミを使用したり、嗜好にも沿うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けし、口腔ケアをその方に応じて行っています。訪問歯科もお願いしています。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その時の体調などにもよりますが、日中は全員がトイレにて排泄しています。排泄パターンの把握にも努め、その方に合ったペースで排泄できるように努めています。	ほとんどの利用者が見守りでの一部介助で、リハビリパンツ、布パンツ使用という状況である。利用者の尊厳を守りつつ排泄支援に繋げている。排尿、排便チェック表から利用者のパターンを掴み、時間に合わせ声掛けを行っている。また、スムーズな排便を促すため、オリゴ糖を牛乳に混ぜ摂取していただいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分摂取も気を付けたり、乳製品、オリゴ糖などで自然排便を促しています。 主治医からその方に合った整腸剤も処方して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、本人の体調その日の気分によっても入浴できるようにしている。 菖蒲湯、ゆず、りんご湯など季節の入浴も楽しんで頂いている。	広い浴室には3個の浴槽が設けられ2ヶ所にはリフト浴が設置され先々迄考えた浴室となっている。入浴は同性介助に心掛け週2回実施している。入浴拒否の方もいるが時間を変えたり、日を変え対応している。広い浴室に仲の良い利用者同士が2人で入り楽しまれたり、菖蒲湯、ゆず湯、りんご湯等の季節のお風呂も楽しんでいる。母体の特別養護老人ホームで足湯を楽しんだり、受診の帰りに家族と温泉に行かれる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様には、自由に好きな時に好みの場所で休んで頂いている。夜間は利用者様が眠くなった時に休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を全職員が常時見ることができる場所に置いている。また誤訳、投薬漏れがないよう2名で服薬チェックを行い服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きな事、したいことを見つけ生活に取り入れている。タバコなどの嗜好品も楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天などでない限り、毎朝散歩をしていただいています。体調、気分、天候により、歩行距離を調整させて頂いています。 馴染みの場所や名所にドライブなどにも出掛けています。	外出時、ほとんどの利用者が自力、杖、歩行器使用で歩行できる状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩している。ホーム内部が十分な広さがあり雨天の日でも職員と一緒に廊下などを歩いている。年間外出計画があり、杏や桜の花見、近くの県立歴史館の鯉のぼり見物や森將軍塚祭りへの参加、神社の菊花展や紅葉見物等、盛り沢山に計画されており、少人数に分かれドライブも兼ね出掛けている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人ではお金の管理をしてる方はいません。外出時買い物の際には、ご希望に応じ事業所で立て替えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で連絡を取ったりご家族の協力を得ながら、希望のある時は自由に話ができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けや花などで四季を感じていただいたり、大きな窓から四季折々の景色を楽しまれている。	広い敷地には多くの杏と広い畑、散歩するのに充分すぎるほどの庭があり素晴らしい環境である。玄関を入ると改装前の温泉施設以来のロビーが広がり、多くのソファとイスが置かれゆったりとした雰囲気を出している。壁には施設長が撮影した各地の紅葉の写真と行事の際に撮影した利用者の様子が紹介されている。季節の飾り付けが施されたホーム内は広く、食堂の他、何ヶ所も寛ぐスペースがあり思いのまま自由に生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお話をしたり、景色を眺めたり、思い思いの場所で過ごしていただいている。落ち着かない方は隣のフロアに誘導し落ち着ける場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の写真やご家族からのメッセージが置いてあったり、馴染みの家具などお持ちいただき、落ち着く居心地の良い雰囲気づくりを心掛けています。	広い居室には洗面台が備え付けられている。使い慣れた家具や家族の写真、テレビ、仏壇等、思い思いの物を持ち込んでいただき、また、誕生日に贈られたメッセージカードなどを壁に張るなど、自分の気に入ったレイアウトにし居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの状態に応じてベット、タンスの配置を換え安全を図っている。トイレ、浴室も貼り紙をし、利用者様によっては、居室に名前を貼りわかりやすいようにしている。		